



白川の風

ふるさと茶屋
情報誌
2011年冬号 vol.39

朝夕の冷え込みが日ごとに増し、寒い地方からは初雪の便りも届き冬の訪れを感じる頃となりました。「秋のお茶まつり」も皆様方のおかげで好評のうちに終了することができましたこと、厚く御礼申し上げます。今年各地で震災や豪雨が猛威をふるい、日本中が傷ついた1年でした。この傷は簡単に癒えるものではありませんが、私たちに何ができるのか？ 少しでも助けになることはないか？ と考えることが多くありました。さてこれからの寒い季節、皆様の“心なごむ”ひとときにはますぶち園のお茶がぴったり！ 身にも心にもほかほかに温かいひとときをお過ごしください。

茶畑日記

厳しい寒さに向けて 冬じたく

今年は夏の間もほどよく雨が降り茶樹も順調に生育していましたが、9月20日の豪雨により茶畑では何箇所かのり面が崩落し、茶畑へ通じる道路も寸断されてしまいました。今回の豪雨は昭和42年にこの地域を襲った8.17豪雨以来の大雨で、被害も多く出ました。寸断した道路はすぐ仮復旧が終わり、茶畑で秋整枝とススキの敷き込み作業が行われました。

秋整枝では豪雨で崩落した箇所もあり、コンビを組む相手のことも思いやりながら自分の足下にも注意して作業を進めました。また夏の間に大きく成長したススキを刈り取って畝間に敷き詰めました。このススキは茶畑の土を肥やす良質な有機肥料へと変わるとともに、冬の間の寒さから茶樹を守る役割もあります。秋も深まり、山々の紅葉も美しくなってくる頃、茶畑も厳しい冬を迎える準備が整いました。



二人の息もぴったり（秋整枝）



広い茶畑は軽トラが大活躍



手作業でススキを敷き込み作業

大きな被害にはならず良かったと思うと同時に自然の力のすごさを感じます。



のり面が崩落!!

岐阜県農業フェスティバル

岐阜県の特産品が集まる「見て、買って、味わって、楽しむ 県下最大級の食と農の一大イベント」

飛騨・美濃じまん。



大盛況のお茶会コーナー

第25回岐阜県農業フェスティバルが10月22日・23日の2日間、岐阜県庁周辺で開催され、岐阜県茶商業組合としてPRイベントブースを出展しました。ますぶち園からも鈴木と鷺尾がPRイベントに参加しました。

午前中は品評会上位に入賞した岐阜県池田町産の美しいお茶を来場者に試飲してもらうコーナー、午後からは自分だけのペットボトル茶をつくるコーナーが設けられました。

特に品評会入賞茶は普段味わう機会が少ないため、お茶だけでこんな濃い味がするの？と驚きの声が多く聞かれました。

会場内はお茶のみならず県内の農業関連のPRや生産直売ブースが多数出展した大変な盛り上がりでした。